

第7期きのくに教育審議会第2回会議 委員発言概要 (R4.8.29)

カテゴリ	発言要旨
幼児教育	・『育ちと学びのかけはしブック』が県教育委員会から出されているが、「環境や遊びを通してこういう力を育てている」という幼児教育を、幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿なども含めて小学校中学校の先生に知ってもらいたい。
ふるさと教育	・ふるさと教育の普及啓発をしっかり進めていこうというのは非常にいい。 ・体験活動の充実も、和歌山をしっかり知るところを充実させようとしているのでいい。
ふるさと教育 キャリア教育	・ふるさとの非常にすぐれた特徴を活かして、和歌山に残ってどう商売するかとか、他の都道府県の方々に対して、どれほど素晴らしいことなのかを伝えられるような、ふるさと教育とキャリア教育の融合みたいなところがあつたらいい。 ・ふるさとに対する愛着を持ってもらうために、将来生活するにあたって、こんな夢ある企業がたくさんあるんだと知ってもらい、小中高校生向けに、企業体験のように実際に体験してもらって、私もこんなところで働きたいと思うようにつなげていってほしい。
健やかな体	・体育の指導やスポーツの指導において、ICTの活用も検討してもらえるといい。
食育	・食料自給が非常に低いので、もっと農業の大切さを小さい頃から教育指導する方向に持って行って欲しい。 ・自分が食に対して興味や関心を持つ、理解をすることにとらなると、体を整えるということに繋がっていかないので、食育はすごく大事。特に和歌山は食の豊かなところなので、そういった知識を小さいときから身につけさせる。そして、よりよい自分の発達に応じた食べ方ができるような子供が育つような教育が大事。
不登校	・予防に力を入れた方がエネルギー的にも時間的にも先生方の負担は小さいと思う。学級への適応調査とか、職員や管理職の研修に、不登校予防みたいなのを取り込んでもらえたら。
防災教育	・学校と地域の連携した実践に即した避難訓練の推進についても盛り込んでいった方がいい。
学校教育の魅力化・特色化	・多様性が1つのキーワード。子供の多様性に応じた、個性を伸ばす教育の場の提供の必要性というのが非常に高くなってきている。商業高校や工業高校、あるいは学校によって、語学を中心とした国際関係に重点を置いた教育ができるなど、そういう個性のある教育の場の提供は、多様性という観点から考えても必要になってくる。自分に応じた教育の提供を受けることができることによって、生徒自身が興味を持って学校で勉強することができるのが本県の目指すところではないかと感じている。
ICT・DX	・学校内における無線LANの環境整備は、特に力を入れて進めて行って欲しい。
コミュニティ・スクール	・導入がゴールではなく、そこから一歩、二歩と進めていくことが必要。充実も必要だが、あえて教育委員会からのプッシュをしていくという形はこれから必要ではないか。
教職員の勤務環境	・教職員のワークライフバランスが保たれているという視点も重要。
生涯学習	・生涯教育の中で、公民館で活動されていたり、高齢者の方の学びの場所があつたりするが、その方達と学校とを結びつけるような仕組みができていないところがまだまだ多い。学んだことを自分のことだけで終わらせるだけではなく、コミュニティスクールの仕組みを使って、学んだことを還元できる場所があれば、子供たちはその方の持っている力や知恵などを間接的に体験でき、勉強の場所になっていくと思う。
部活動	・地域移行がだんだん進んでいくにあたって、今文化部に入っていない子供たちも、地域で部活動が行われるようになれば、これまで触れられなかった子供たちも触れられるようになっていくと思うので、今ある部活動の活性化よりも一歩先の辺りも視野に入れておいてほしい。
部活動・スポーツの振興	・部活動の地域移行を契機とした地域スポーツの活性化も、取り組む上で非常に重要。
障害者スポーツ	・障害がある子供たちが日常的にスポーツを楽しめるということも非常に大事。障害者スポーツの視点が抜けないように。
文化芸術の振興	・「生涯にわたって豊かに生きる」という項目の中に、芸術や音楽が入って欲しい。スポーツも音楽も同じように並列して推進するというふうにもまとめてほしい。 ・南葵音楽文庫の公開や成果の発信が、こういうものがある和歌山ってすごいと思う心にも繋がっていくのではないかな。音楽を通してそういう気持ちが育っていくのであれば、もっと身近なものとして感じてもらえるような工夫をするべきだと思う。
多様性	・新たに人権の尊重、多様性の尊重という項目を別立てで立てるということについて賛成。人知れず生きづらさを抱えながら生きている人が多い中で、人権を尊重する、多様性を認め合う子供が育成され、誰もが生きやすい世の中になっていくことは非常に重要。 ・ギフテッドのような非常に特殊な能力、稀有な能力を持ちつつも社会的に生きるのが難しいような子供を、いかにして教育の中でフォローして行って、心理的にも経済的にも社会的にも活躍していったらいいかといったところが今後のテーマになってくるのかなと思っている。